

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	多度津町立四箇小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	19
児童数	64	52	48	50	55	50	5	324	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着と基礎学力の向上を図る指導の在り方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 国語・算数

基礎学力の基になる教科であり、学年があがるにつれて学習意欲，理解，定着に差がでてくる教科でもある。

(2) 年次ごとの計画

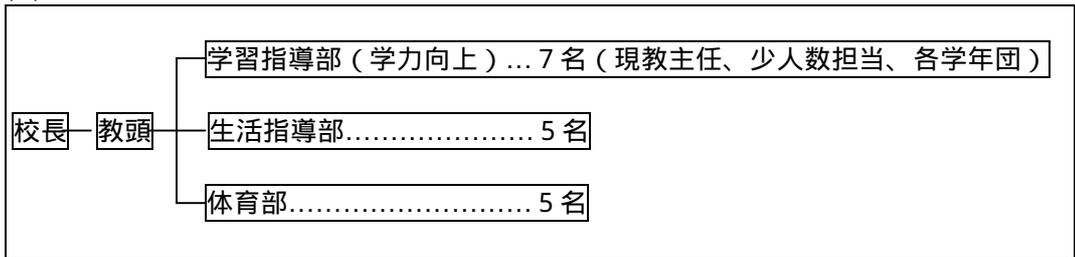
平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と基礎学力の向上を図る指導の在り方 ～算数科を中心に～</p> <p>研究の仮説 算数科における子どもの基礎学力の実態を客観的に把握し，指導法を改善したり基礎学力を向上させる取り組みをしたりすれば，基礎・基本の定着が図れるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容 個に応じた学習指導方法の工夫 基礎学力・確かな学力の向上</p> <p>研究方法 個に応じた学習指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育内容の精選と基礎・基本の明確化を図る。</li> <li>・ 学習内容は，子どもの実態に応じて軽重をつけて扱い，理解の進んでいる子に対して発展的な学習の教材開発を行う。</li> <li>・ 4～6年の算数科を中心に少人数学習，T・T学習の在り方を探る。</li> <li>・ 問題解決的な学習や体験的な活動を積極的に導入する。</li> </ul> <p>基礎学力・確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日課の中に補習時間を確保する。</li> <li>・ ドリルの時間・家庭学習・授業の効果的なサイクルを考える。</li> <li>・ 指導のねらいを明確にした漢字・計算テストを実施する。</li> <li>・ 学校全体で基礎学力の向上を図るような教材を開発する。 一人ひとりの子どもの基礎学力の実態に応じたドリル等の教材を開発し，意欲的に学習に取り組むことができるようなシステム作りを行う。</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と基礎学力の向上を図る指導の在り方 ～国語科を中心に～</p> <p>研究の仮説 国語科における子どもの基礎学力の実態を客観的に把握し，指導法を改善したり基礎学力を向上させる取り組みをしたりすれば，基礎・基本の定着が図れるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	---

	<p>研究内容 個に応じた学習指導方法の工夫 基礎学力・確かな学力の向上</p> <p>研究方法 個に応じた学習指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育内容の精選と基礎・基本の明確化を図る。</li> <li>・ 学習内容は、子どもの実態に応じて軽重をつけて扱い、理解の進んでいる子に対して発展的な学習の教材開発を行う。</li> <li>・ 国語科を中心に少人数学習，T・T学習の在り方を探る。</li> <li>・ 体験的な活動や課題別学習に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>基礎学力・確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日課の中に補習時間を確保する。</li> <li>・ ドリルの時間・家庭学習・授業の効果的なサイクルを考える。</li> <li>・ 指導のねらいを明確にした漢字・計算テストを実施する。</li> <li>・ 学校全体で基礎学力の向上を図るような教材を開発する。</li> <li>・ 朝の10分間読書を実施する。</li> </ul>
--	---

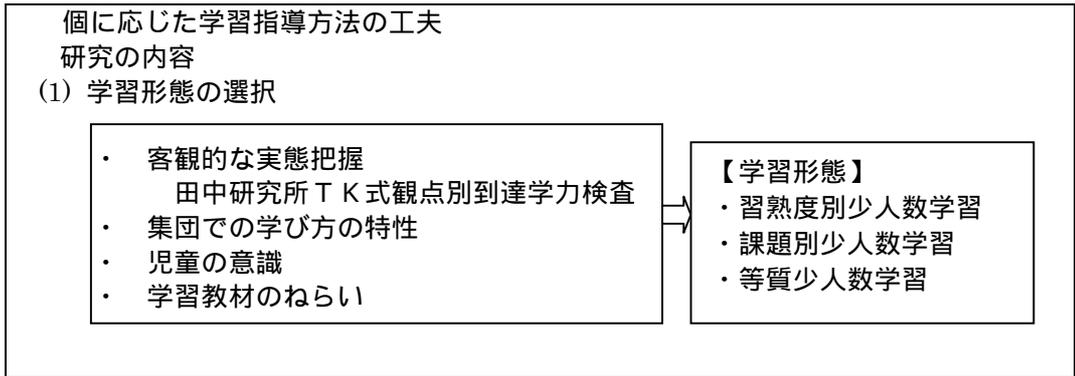
平成 16 年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と基礎学力の向上を図る指導の在り方 研究の見通し 基礎学力の実態を客観的に把握し，指導法を改善したり基礎学力を向上させる取り組みをしたりすれば，基礎・基本の定着が図れるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法 研究内容 個に応じた学習指導方法の工夫 基礎学力・確かな学力の向上</p> <p>研究方法 平成14・15年度の成果と課題から，国語科と算数科の指導法を見直し，児童の実態に即し，より確かな学力とする実践研究に取り組む。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果



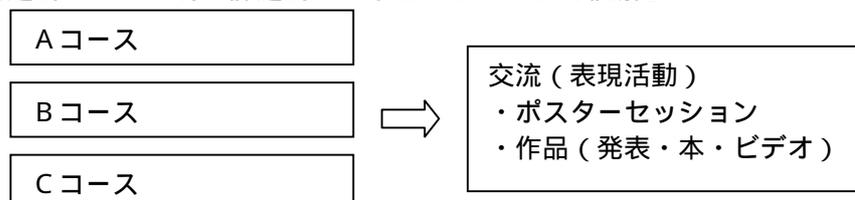
(2) 「読むこと」の分析

学習状況調査，田中研究所TK式観点別到達学力検査より「読む力」が弱いと診断された。そこで、「読むこと」を分析し，学年の系統性を考慮しながら，段階を追って指導する。

(3) 学習形態

課題別少人数学習（「興味・関心」中心，読解後の表現活動に関連）  
学び合いの中で，他者の影響を受けながら個々の児童の伸びが期待できる。

【問題別・テーマ別・課題別の2学級3グループで読解】

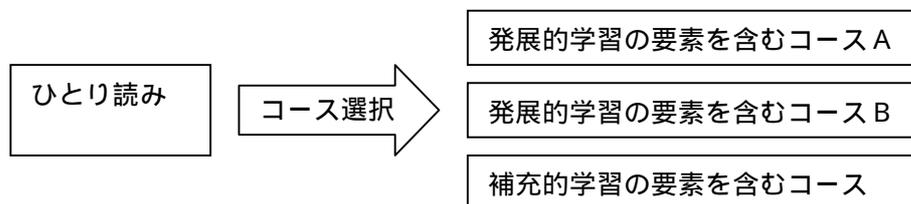


課題別学習は，児童が興味・関心をもったテーマでグループ編成をするので，児童も意欲的に取り組む。「少人数学習アンケート」でも少人数学習の利点の一番に「自分にあった学習を選ぶことができる」ということを挙げている。課題別グループで教材文の「読解」をし，その後の表現活動の段階で個に応じるワークシートを工夫する。ねらいを明確にした複数のワークシートを用意し，児童が自分にあったものを選択する。

習熟度別少人数学習（「読解」中心）

個の学習理解度にあわせた指導を行うことができる。

ひとり読みをした時の初発の感想や「問い」やワークシートの記入の状況からコースを選択する。



発展的学習Aコース…自分の考えをもとに話し合いによって読みを深める。

他の学習教材を参考にして読みを深める。

発展的学習Bコース…文章・言葉と具体を結びつけながら読みを深める。

補充的学習コース…キーワードを大切に読みを深める。

(4) 学習活動の中で読む力をつける取り組み

キーワード・キーセンテンスを意識（段落構成）

教材文の「読解」をたすける活動の工夫

- ・ 説明文…教材との出会わせ方を工夫する。  
内容と表現活動を関係づける。（動作で，絵で，説明図で）  
「文章・言葉」から具体を意識づける。  
筆者の表現の工夫を生かした表現活動を計画する。
- ・ 物語文…自分の言葉におきかえ，イメージを豊かにする。

具体的な実践

【単元】「ロボットもの知り情報誌」を作ろう（6年）

教材文「人間とロボット」

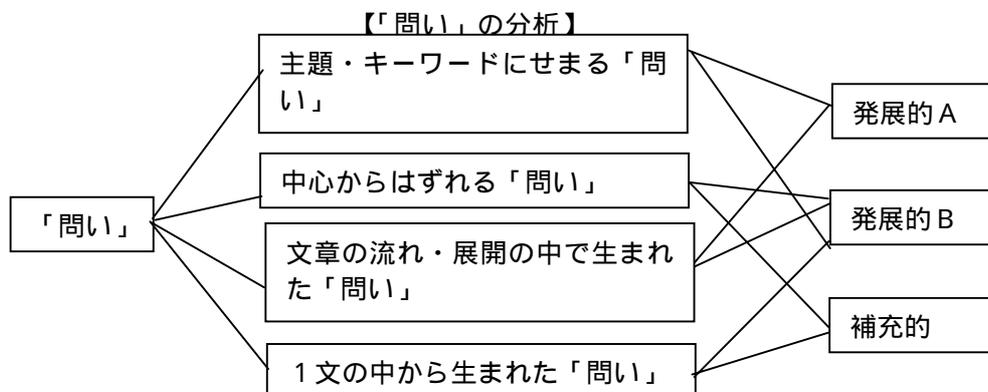
【単元の目標】

- ・ 人間とロボットの関わり方について筆者の立場や考えを読みとる。
- ・ 自分の意見や調べたことをまとめて「情報誌」を作る。

## 【学習指導】

「読む力」をつけることをねらい、習熟度別学習の形態をとる。各自の「問い」を分析し、「中心語句、中心文、段落相互の関係を考えて文章を正しく読む。(中学年)」をもとに「問い」を段階づける。

### 習熟度別学習のグループ編成



#### 発展的コースでつきたい力

- ・ 文末の言葉に注目させ、事象と意見の区別がつくようにする。
- ・ 書かれていることに対して自分の考えをもつ力を身につける。

#### 補充的コースでつきたい力

- ・ 正確に本文の内容を読みとる力をつける。

#### 本時の内容(5/10時間)

##### 発展的A：課題「人間とロボットのよりよいかかわり方について考えよう」

筆者の考えているロボットが、人間のため(安全・健康・快適・作業の効率化等)に作られたものであることを押さえ、「何でもロボットにさせると人間は楽できて、よいことばかりだね」とゆさぶりをかけ、人間とロボットのよりよいかかわり方について自分はどうか考えるかを意見としてまとめる。

##### 発展的B：課題「ロボットについてまとめよう」

簡単なプログラムを使って動作化することにより、ロボットは人間の幸せのために作られたものであり、与えられたプログラム以外のことはしないという事実をハード・ソフト両面から読みとり、人間とロボットのよりよいかかわり方を考える。

##### 補充的：課題「『ロボット三原則』がどのような意味をもってきたか考えよう」

「ロボット三原則」の内容を、一つずつ文章中の産業用ロボットの例と結んで理解し、人間とロボットのかかわり方について考える。

#### ワークシートの工夫

- ・ 自分の考えをもつためのワークシート(発展的A)
- ・ 具体と言葉を結びつけるワークシート(発展的B)
- ・ キーワードに主眼をおいたワークシート(補充的)

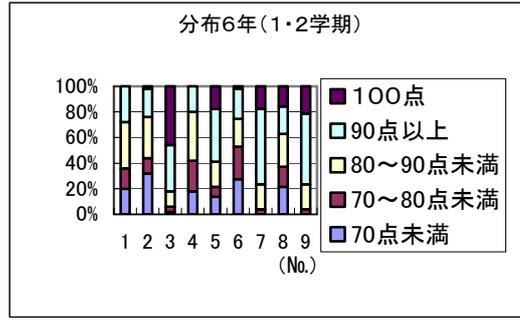
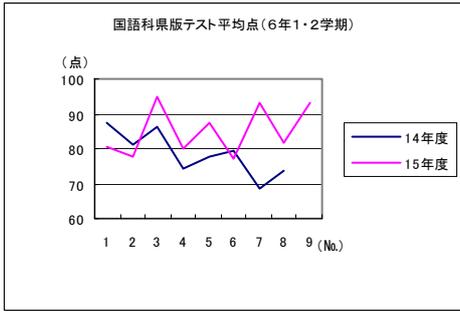
#### 読む力をつけることを意識した学習活動(単元全体)

- ・ 写真、ビデオ、インターネットによる資料を用いて、言葉のイメージを具体化する。
- ・ キーワードを意識した話し合い活動をする。
- ・ 自分の言葉におきかえて表現する。

#### 県版テストによる評価

- ・ 「読む力」に関わる観点の問題(2問)の達成率  
問1 82.4% 問2 90.2%

・ 平均点の比較及び得点の分布（1・2学期）



3, 7, 8は「問い」をもとにした習熟度別的小人数学習で取り組んだ単元を含む県版テストである。14年度と比較して高い平均値を示しており、取り組みの成果と考えられる。しかし、15年度の8が3や7に比べて低い。他の単元と異なる要素の1つとしてワークシートの扱いが考えられる。今後、個に応じたワークシートの工夫を考えたい。

児童の興味・関心を大切にしたい課題別学習も、15年度の5が示すように伸びが見られた。課題別学習の効果を見ると、児童や単元に応じた学習形態や学習指導を考えていくことが大切である。

「読むこと」の内容の達成率は80%をこえ、期待する数値を示している。しかし、国語科のテストでは、学習内容の理解や言語能力・書く力等の要素の加味も無視できない。

今後、平成16年2月に実施した学力検査の結果をもとに、国語科の能力を客観的に分析し、より具体的な課題として次年度に取り組む。

14年度	3 「宇宙からツルを追う」
	6 「海のいのち」
	7 「人間とロボット」
	8 まとめ
15年度	3 「宇宙からツルを追う」
	7 「海のいのち」
	8 「人間とロボット」
	9 まとめ

太字: 「問い」をもとにした習熟度的なグループ編成で少人数学習を実施した単元

基礎学力・確かな学力の向上

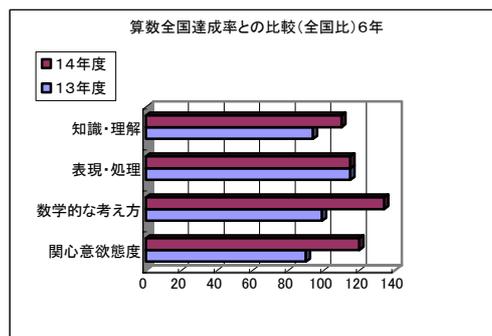
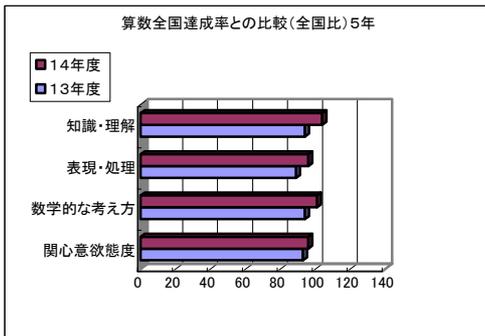
「漢字ドリル」は単元のまとまりを意識して作成しており、授業の進度・児童の定着にあわせて選択することができる。授業で習ったことをドリルで確かめ、その結果をもとに家庭で復習し、再度ドリルで確認することもできる。さらに、学期末には、「漢字テスト」で集中的に定着をはかる。

「朝の読書」「漢字ドリル」によって、文章に親しむこと、言語能力を育成することが授業を支えていると考えられる。「読む力」につながるより効果的なドリルに改善していきたい。

(参考)

14年度実施した算数科の学力検査の結果が、中間報告の時期に出されていなかったため、ここに昨年度の算数科の結果を示す。観点別の達成率を全国の達成率と比較したものである。

(上段赤色15年2月 下段青色14年2月実施)



昨年度の主とした取り組みである5年生の「表現・処理能力」、6年生の「知識・理解、数学的な思考力」において、伸びが見られる。しかし、5年生の表現・処理能力が全国

